

とっとり暮らし 2021



自然豊かな
子育て環境
そして
温かい人たちが
迎えます



楽

来

暮

「田舎暮らしの本」特別編集
©宝島社 2021

鳥取県へのアクセス

- ◎車
 - ・大阪～鳥取：約2時間半
 - ・大阪～米子：約3時間半
 - ・名古屋～鳥取：約4時間
 - ・名古屋～米子：約4時間半
- ◎鉄道
 - ・大阪～鳥取：約2時間半
 - ・大阪～米子：約3時間半
 - ・名古屋～鳥取：約3時間半
 - ・名古屋～米子：約4時間半
- ◎飛行機
 - ・羽田～鳥取：約1時間10分
 - ・羽田～米子：約1時間15分



「とっとり暮らし」への3ステップ

- ステップ 1**
情報を収集&相談
- ステップ 2**
暮らしを体感
- ステップ 3**
仕事・家を見つける

とっとり移住定住ポータルサイトから、市町村の紹介や支援制度などの役立つ情報が入手できます。また、鳥取県の総合相談窓口や随時開催している相談会などでも、情報収集や移住相談ができます。まずは気軽に相談してみましょう。オンラインの移住セミナーも多数開催しています。

移住体験ツアーやお試し住宅などを活用して、実際に鳥取県で暮らしを体感してみるのがおすすめ。滞在中にまちを個別案内してくれる市町村もあります。

(公財)ふるさと鳥取県定住機構がIJUターン者向けに就職支援を行っているほか、鳥取県には農林水産業や起業・開業への支援もあります。また、住宅のことなら、とっとり暮らし住宅バンクシステムや市町村の空き家バンク、不動産検索サイトなど、多くの方法で探すことができます。

とっとり暮らしへ

「とっとり移住応援メンバーズカード」申込募集中!

鳥取県への移住をお考えのみなさまをサポートする「とっとり移住応援メンバーズカード」。お店でカードを提示していただく、移住前後に利用が見込まれる商品・サービス等の優待を受けることができます。



詳しくはこちら



※サービス内容はお店によって異なります。

鳥取県への移住相談窓口

Web相談も受付中!

公益財団法人 ふるさと鳥取県定住機構

移住のご相談は… ☎0120-841-558

※かけた地域によって鳥取・東京・大阪いずれかの窓口につながります

鳥取相談窓口

(利用時間/平日8:30~17:15)

〒680-0846 鳥取県鳥取市扇町115-1

鳥取駅前第一生命ビル1階

☎0857-50-0137

✉ iju-tottori@furusato-tori.org

※ファイナンシャルプランナーが

移住前後の生活費もシミュレーション!

大阪相談窓口

(利用時間/平日8:30~17:15)

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-1-3-2200

大阪駅前第3ビル22階 鳥取県関西本部内

☎080-1932-8319

(上記番号の受付時間/月~水17:15~20:45

土・日・祝12:00~20:45)

東京相談窓口

(利用時間/平日10:00~18:00)

〒105-0004 東京都港区新橋1-11-7

新橋センタープレイスビル2階

とっとり・おかやま新橋館内

☎080-1932-8309

(上記番号の受付時間/木18:00~20:30

土・日・祝10:00~18:00)

◆とっとり暮らしサポートセンター

(利用時間/10:00~18:00 ※月・木・祝を除く)

〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-10-1

東京交通会館8階 ふるさと回帰支援センター内

☎090-1657-7470

☎090-1657-7470

とっとり移住定住ポータルサイト「鳥取来楽暮」※全市町村のお試し住宅や空き家バンクも紹介しています。

とっとりこらぼ 検索 <https://furusato.tori-info.co.jp/iju/>



東京から
Uターン
鳥取市
【とっとり】

鳥取市へUターンして起業 人とのつながりがうれしい

川崎富美さん

1

とっとり暮らし

県庁所在地である鳥取市は、鳥取砂丘があり、自然や新鮮でおいしい食べ物などが豊富な魅力的なまちだ。
東京で大手小売会社のプロダクトデザイナー兼バイヤーとして働いていた川崎富美さんは、故郷・鳥取市にUターンして、2021年で4年目を迎える。
「東京での仕事にやりがいはある

りましたが、職業柄、人工物を見るのが習慣化してストレスになっていました」
川崎さんの心が落ち着くものは、手づくりの品や出張の際に触れる地域の風習や伝統。
「自分がいいなと思うものや場所は、鳥取と似た感じでした。鳥取が合っていたんですね」

鳥取で起業し、暮らしの一部として仕事をする決めた川崎さんにとって、長い時間を過ごす家は重要。市の空き家バンクで物件を探し、田んぼの前に立つ古民家を借りた。趣や造りが川崎さん好みで、状態もよく簡単な補修だけで入居できた。
仕事はフェイスブックでつながった仲間から人脈を広げ、前職を活かしたデザイナーのほか、店舗ディスプレイや商品セレクトも手がける。

「午前中はデスクワーク、現場仕事や打ち合わせは午後ですね。今は自分で時間や仕事をコントロールできるので、忙しくてもつらくありません。近くの温泉でリフレッシュできます」
鳥取に戻り「仕事の価値観も変化した」と川崎さん。2020年秋にディレクションした地元雑貨店には、多くの客が訪れる。「店に行ったらよ」というお声もかけていただきました。鳥取は人のつながりが見えるのがうれしいですね」ととても満足そうだった。



仕事場になっている1階の大広間からは田んぼが一望。川崎さんが、この家に一目惚れした風景だ。



気分転換は、自宅近くを流れる河内(こうち)川沿いの散歩。



もと農家だった古民家。手にしているのは地元の郷土玩具の張子で、現在その技を習得中だ。



「鳥取の魚介は新鮮で本当においしい」と再認識した川崎さん。冬の「かに汁」がお気に入り。写真は川崎さんのお手製だ。

YouTubeで体験談を聞こう!



動画共有サイト「YouTube」に鳥取県へ移住した方々の暮らしを紹介する動画をアップしています。鳥取県の美しい海、子育て環境、農業のこと……、先輩移住者からたくさん「いいね!」をお届けします。



YouTubeに先輩移住者の動画をアップ

とっとり移住定住ポータルサイトでもご覧いただけます。

いいね!とっとり 検索



鳥取でリモートワーク!

コロナ禍で生活様式が一変し、田舎でのリモートワークやワーケーションなどに注目が集まっています。豊かな自然に囲まれて日常的に癒されながら夢やキャリアをあきらめない暮らしができます。

2

とっとり暮らし

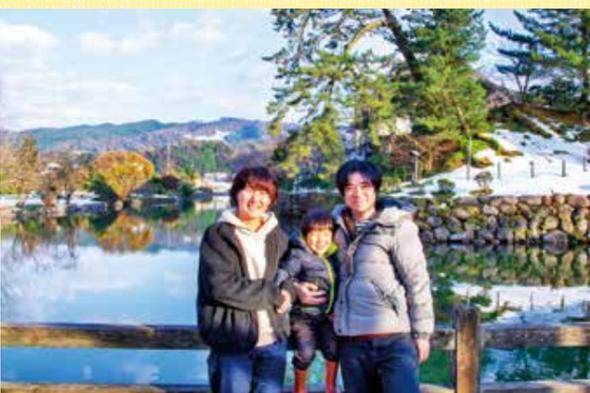
鳥取市街から車で30分ほど、城下町の風情が残る鳥取市鹿野町。2017年10月に移住した吉井秀三さんも、東京からUターンして自宅で仕事をしている。一軒家で家族とともに暮らし、2階が仕事場。前職の会社から業務委託を受けて、リモートで全国各地にいる顧客のバックオフィス業務などを請け負っている。
「リモートでできる仕事なので、以前から地方の一軒家で暮

東京から
Uターン
鳥取市
【とっとり】

子育て環境のよい鳥取へ リモートもリアルも充実

吉井秀三さん ● 麻妃さん ● 尚くん

「子育て環境のよさや畑仕事はもちろん、公民館主催の料理教室など、意外とクオリティが高い体験を安価で楽しめた。新しい生活様式は地方のチャンスと考えている。
「リモートワークで各地に人が分散することで、その地域でしかできないことが大切になってきます。子育て環境のよさや畑仕事はもちろん、公民館主催の料理教室など、意外とクオリティが高い体験を安価で楽しめた。」
吉井さんは、リモートなどの新しい生活様式は地方のチャンスと考えている。
「リモートワークで各地に人が分散することで、その地域でしかできないことが大切になってきます。子育て環境のよさや畑仕事はもちろん、公民館主催の料理教室など、意外とクオリティが高い体験を安価で楽しめた。」



妻の麻妃さん、息子の尚くんと鹿野城跡公園で。移住に積極的だったのは兵庫県出身の麻妃さん。



自宅の2階が仕事場。「ここは完全に仕事の部屋で、食事や休憩は1階です。オンオフの切り替えと自己管理がリモートのキモですね」と吉井さん。



畑を借りてトマト、タマネギなどを収穫。「近所の農家さんにかなり助けていただいています」。

りします。リアルな体験は愛着を生むし、地域の魅力にもつながります」と期待を寄せる。
リモートとリアルをうまく活用して暮らす吉井さん。鳥取だからこそできる新たな楽しみを増やしていきたい。

神奈川県から
1ターン
境港市
[さかいみなとし]

● 仲里心平さん
協力隊として活動した境港市で起業
伝統的和綿でオーダーシャツづくり

3
とっとり暮らし
全国有数の水揚げ量を誇る漁港と妖怪のまちとして全国的に有名な境港市では、農業・化学肥料不使用の希少な国産綿「伯州綿」が栽培されている。2017年に地域おこし協力隊として着任した仲里心平さんが境港に決めたのは、この伯州綿にひかれたから。
「しなやかでからだに自然にフィットする和綿にかかわりたかったんです！」
協力隊の任期を終えた仲里さんは、2020年9月から市の支援を受け、伯州綿のオーダーシャツなどを手がける服飾職人



借りている家の一角が仲里さんの仕事場。境港市発の地域ブランドを目指す。

伯州綿シャツの原点の綿畑で、師匠の岩本さんと。



として独立起業。自宅の一部を工房にして生産から加工、販売まで一貫して行っている。また地元ラジオで伯州綿の情報発信を行うなど、伯州綿の魅力を伝える活動にも積極的だ。
仲里さんには生産者からも熱い期待が寄せられている。仲里さんが栽培を学んだ綿畑の管理者・岩本清隆さんは「彼のシャツが売れることが和綿の栽培につながる。うれしいし頑張つてほしいですね」と話す。
「シャツを通じて自分の好きな伯州綿のよさを地元の方、そして全国の人たちに知ってもらうことで、今まで支えてくれた方や、境港市に恩返しをしたいです」と仲里さん。手仕事のオーダーメイドシャツは、新天地への感謝の品でもある。

栃木県から
1ターン
若桜町
[わかさちょう]

● 柚洞一央さん ● 久美子さん ● 結さん ● 弥那さん ● 央泰くん
地域の文化を知るため田舎へ
小中一貫校でのびのび学ぼう

5
とっとり暮らし
柚洞さん家族は、地理学者である一央さんの進学や就職にあわせて、全国各地を転居。「地域の文化を知りたい」と、田舎暮らしを実現してきた。
そんな一家が鳥取赴任に際して選んだのは、人口約3000人の若桜町。山に囲まれた静かな谷間にあり、中心地には城下町の趣が残る。
決め手の1つが、小中一貫校「町立若桜学園」だ。「校舎は広々、冷暖房完備、電子黒板や1人1台のタブレット端末など、学ぶ環境がよいと感じました」と一央さん。3人の子どものうち、長男は1500年の古民家。久美子さんは「子どもたちは生まれたときから古民家育ち。大きな声や音を出せる環境に慣れてしまっています」と笑う。



子どもたちは放課後や休日になると、用水路や公園、図書館など自分たちで楽しみを見つけようとして遊んでいる。そうして遊んでいくうちに、自ら考えて行動する力を養うと柚洞さん夫妻は考える。
近所の人たちは、3姉弟を温かく見守ってくれる。友だちや保護者、一央さんの勤め先の大学生など、周りにはいつも、幅広い世代の人たちがいる。交流を楽しみ、支え合う田舎らしい生き方が、子どもたちをたくましく育てている。



町内にある「わかさ生涯学習情報館(図書館)」が大好きな3人。読書や勉強をして過ごす。

のびのび子育て！ 起業にチャレンジ！

鳥取県は、安心して子育てができる「子育て王国とっとり」を目指し、さまざまな支援策を実施しています。なにより、豊かな自然や地域に根差した文化は子育てに最適です。

鳥取県には、移住者がその地域で新しく仕事を始めやすい環境が整っています。県や市町村による起業のための支援をはじめ、地域の人たちの温かい応援もあります。

神奈川県との
二拠点生活
智頭町
[ちづちょう]

● 村尾朋子さん
古民家をゲストハウスに改築して
横浜と智頭の二拠点生活

4
とっとり暮らし
江戸時代に参勤交代の宿場町として栄えた智頭町で、祖父母と父が住んでいた築150年の古民家をリフォームして、2020年春から一軒貸しのゲストハウスを運営するのが村尾朋子さんだ。移住前に住んでいた神奈川県横浜市でウェブ制作会社も手がけ、横浜と智頭とを行き来する二拠点生活をしている。
ゲストハウスでは野菜の収穫や田植えなどの農業体験、薪で炊くごはんなどの田舎暮らし体験ができ、WiFiも完備。
「リモートワークの場として1



「智頭町は歴史文化も豊か。地元の方と県外の方が語り合える場にしていきたい」と村尾さん。

カ月滞在された県外の方もいらつしやいました」と村尾さん。
ウェブ制作は、横浜をメインにしつつ智頭でも地元建築会社とのサイトを手がけるなど、新天地での仕事も増やしている。テラワークに適した職種のため、春から秋は智頭、冬は横浜で暮らすというライフスタイル。
「横浜に戻ると周りの人から『緑の香りがする』と言われる。智頭の自然が豊かな証です」
智頭町は早くから住民主体による地域活性化に取り組み先進地域。村尾さんもまちの活性化に積極的に関わっている。
ゲストハウス「明日の家」は、「明日のほろがもつと新しいことがある」という希望から名づけられた。常にポジティブな村尾さん。智頭町に新しいことをしたい人たちが集まってきそう。

ゲストハウスの間取りは、当時の状態を継承。立派な梁と和紙の手づくりの照明が目をひく。



自然のなかで子どもたちを保育する！
「とっとり森・里山等
自然保育認証制度」

鳥取県では、県内の恵まれた自然のフィールドを活用して保育を行う園を「自然保育を行う園」として認証している。
認証の基準として、活動時間、対象年齢、人員配置、設備及び安全対策について定められている。
現在、認証されているのは、智頭町の「智頭町森のようちえんまるたんぼう」
鳥取市の「鳥取・森のようちえん・風りんりん」
鳥取市の「鳥取・森のようちえん・風りんりん」
鳥取市の「鳥取・森のようちえん・風りんりん」



鳥取市の「鳥取・森のようちえん・風りんりん」。

智頭町の「智頭町・森のようちえん まるたんぼう」。



michikusa(倉吉市の「自然がっこう 旅をする木」の7カ所。



富永さん制作のシルクスクリーンのプリントシャツ。



江府町のおいしい水も移住理由の1つ。お気に入りの水汲み場で子どもと一緒に。



1枚1枚集中して手作業でシルクスクリーン印刷をする富永さん。

景。「ジャンプ場から奥大山の絶景がバッチリ見える！ 抜群のロケーション」と富永さんのいちばんのお気に入りだ。パーク設計工事の経験もあった富永さんは地元観光協会などと「奥大山Xスポーツ協議会」も立ち上げ、地元の人々の献身的な協力も得て「Big Mt. Rooms」は完成。オープンイベントを開催し、競技主催者としても歩みはじめています。

富永さんは現在、2軒の空き家を仕事場と自宅に分けて使っている。仕事は、美しい色彩が表現できるシルクスクリーン印刷。「町の補助金も活用して創業しました。独立した仕事場があるのは助かりますね。じつは発注は県外からも多く、そのほとんどがBMX仲間の紹介だ。「無農薬での米づくりも始めました。家も自分で建てたいと思っています」と富永さん。理想の自給自足生活へと歩みを進めている。

「表現力が重要なBMXは、生き様が出るスポーツ。みんなの憧れになって海外で通用するライダーを江府町から生み出した。パークができて夢に一步近づいたと思うとワクワクします」華麗なジャンプのごとく、魅せるBMXライダーが誕生すれば、江府町はBMXの聖地になっっていくだろう。

とっとり暮らし 6

岡山県から1ターン
江府町
[こうふちょう]

廃校利用で夢の競技場が完成 江府町を「BMXの聖地」に

●富永勇太さん

西日本の名峰・大山の南山麓にあり、地元では「奥大山」と呼ばれる江府町。ここに2020年10月、自転車競技BMX専用の屋内施設「Big Mt. Rooms」が完成した。その仕掛人は、2016年4月に移住した岡山県倉敷市出身のBMXプロライダー・富永勇太さん。17歳でプロデビューし世界規模の大会「アジアンXゲームズ」の日本代表という経



旧・江尾(えび)小学校米原分校を改修してつくられた「Big Mt. Rooms」。



「Big Mt. Rooms」のメイン会場となる体育館(撮影時は改修途中)。ビッグジャンプのバックに奥大山が映える！

歴も持つトップライダーだ。BMXはBicycle Motocrossの略で、富永さんはフリースタイルパークを得意としている。家族で移住した富永さん。江府町を選んだのは、「自給自足のよな田舎暮らしと、自分で家を建てたかったから」と自転車ファーストではなかった。ただ「畑にコースをつくらうというプランはありましたね」と笑う。BMXができるスポットを探そうち、廃校の小学校の存在を知ったのが始まりだった。「天候に左右されない体育館もあり、さらにプレイヤーが競技場をつくる例はほとんどないので、これは価値があると直感しました」と富永さん。ここにコースをつくった最大の理由は絶

鳥取県の地域・特産を活かす！

豊かな自然、新鮮でおいしい食材、これらを活用できる場所、そして応援してくれる地域の人たち。鳥取県には豊かな素材がたくさんあります。それらを活かして新しいことや仕事を始める人が増えています。



洋菓子の要となる卵は、平飼いで育てている隣の「渡辺のびのび農園」のもの。



地元の食材にこだわったケーキ。



店にスイカを提供している田村さんの畑で収穫のお手伝い。



古民家の美しいたたずまいを残した「カフェ&パティスリー ジョンヌ」の前で、天川さん夫妻。

とっとり暮らし 7

東京から1ターン
倉吉市
[くらよし]

倉吉で手に入れた理想の環境と食材！ 半農半ケーキ屋を目指す

●天川慎一さん ●麻依子さん

東京生まれの中学3年生の長男、小学生の娘2人とともに。



東京で吟味した食材を使った洋菓子店を営んでいた天川慎一さんが、家族5人での移住を真剣に考えるようになったのは東日本大震災のあと。「鳥取県か岡山県のどちらかを考え、現地に足を運びました。倉吉市を案内していただくとう海山、里がどれも近くにすることに驚きました。食材の宝庫だと直感して、倉吉に決めました」

売になることも。観光エリアにありながら、まちのケーキ屋さんとしても人気を博している。天川さんのケーキに欠かせないのは、地元の生産者が丁寧に育てた旬の食材。「無農薬栽培の古代小麦、甘味に優れたイチゴやスイカ、平飼いの卵など、素材の味がしつかりした食材ばかり。みんな近くの自然食品店からの紹介です。ありがたいですね」。食材同様に地元の人びともかけがえのない存在だ。

倉吉暮らしでライフスタイルも一新した天川さん。店は日・月・火曜日定休の週休3日にした。「東京では日曜が仕事で、子どもと遊ぶことができませんでしたが。倉吉は海も川も山も近く、趣味の釣りや、子どもたちが大好きなキャンプもできる。この自然を家族で満喫するには日曜を

休むしかない！と決めました」月曜日は農業の日。知人の畑の手伝いのほか、自身も近くに畑を借りて野菜類を育て、自給している。そこにあるのは「半農半ケーキ屋」という理想の暮らしだ。「じつは農家になるのが小さいころからの夢でした」と笑顔を見せる天川さん。今後は無農薬の稲作にも挑戦するそうだ。大阪府出身の麻依子さんもお魚、野菜、水もおいしい。倉吉は豊かなところですね」と倉吉市の暮らしを満喫している。

YouTubeで移住セミナーを聞こう！

鳥取の移住セミナーを配信！



ここに掲載した先輩移住者以外にも、生の体験談が聞ける、オンライン移住セミナーなどを多数開催しています。

YouTubeチャンネルはこちら▶



イベントに参加してポイントをゲットしよう

「あなた」と「鳥取」をつなぐアプリ「とりふる」。就活・交流イベント情報などの最新情報が満載。まずはアプリをダウンロード！ イベントに参加して貯めたポイントは、電子マネーに交換できます。



iOS版



Android版